

AO入試合格介護専攻者に対する 入学前の効果的教育法

竹 宮 敏 子

（2004年1月14日受理）

【キーワード】 AO入試，入学前授業，インパクト，問題解決の方向性，入学後の学習への期待

要約

特別の希望を持つ者へのAO入試で介護専攻に相当として合格した高等学校生徒と社会人に対して、入学前に行う授業のありかたについて、生徒数と反応レベルに応じた全員が発言するインパクトの強い授業の一方法を提案した。

はじめに

本学社会福祉学科介護専攻コースでは、毎年AO入試合格者に対して「自分の住んでいる地域の介護施設に関する調査または体験学習」を課題としてレポートを提出させ、それを元に授業を行っている。筆者はこの授業を2度経験してみて、より効果的な方法について考えるところがあったので、一つの授業方法としてまとめ、次年度からの参考に供したいと思う。

指導体験

1) 平成14年度

担当したのは高等学校3年生5名と社会人入学の大学4年生1名である。小人数で問題解決志向のグループ学習¹⁾に適した構成であるから、司会者を1名互選するよう促し、教師は、東京女子医大方式テュートリアル変法のチューターとして、提言を最小限に押さえて討論の進行を試みた。まず、各自が自分のレポートを読み上げて皆の意見を聞くことを繰り返した。調査内容には共通部分が非常に多く、反対意見は少く、短時間で討論はかなりうまくまとまって行った。大学生が一人いることで提言の思考範囲は広がった。最後は皆の総意で、「今の日本で最も好ましいと思える介護施設はどのようなものか？」ということが討論のテーマに選ばれた。その結論は、「グルー

プホームが最も良いのではないか」ということになった。なぜかという点では、「本来なら家族による在宅介護が最良と思うが、核家族化、高齢者だけの家族の増加、一人暮らしの高齢者も多いなどの理由で、在宅に近い家族的な雰囲気がある小規模なホームが好ましい」ということで皆の意見がほぼまとまった。

所要時間は、90分に設定していたが、丁度その時刻に終了した。この時間設定は、高等学校の45分授業とは違う大学の90分授業の体験も兼ねる目的をクリアさせたいと考えたためである。

2) 平成15年度

高等学校3年生13名と社会人1名の計14名が対象であったので、前年度の方法では行なえない。考えた末、司会は教師とし、主に時間調整での介入にとどめることにした。まず、初めの15分で自分のレポートに基づき最も主張したいことを3行以内に要約するよう促し、それを順次発表した。それぞれの発表について質問はその都度受けることにして、討論も加えながら進めた。その間、教師がキーワードを拾って板書した。同じ意見の板書は省略し、下線で強調しておいた。

この時の発言内容は、下記のように要約される。発言が多かった内容の順番に並べ変えて記載する。

- (1) 施設の絶対数が不足しているので、もっと増やすべきである。
- (2) 介護者の数の不足が著しい。必要な介護をするためには、もっと大勢の人がいなければならない。ボランティアももっと大勢来て貰うように積極的に募集した方がよい。
- (3) 一般の人々は、在宅介護支援のことをあまりよく知らない。広報にはもっと分かりやすい書き方が求められる。説明に行くボランティアもいてよいと思う。
- (4) 地域格差が大きいことが分かった。もっと公平にするにはどうしたらよいのか。
- (5) 高齢者の一人一人が満足できる介護をするには、個人差を知る必要がある。これから勉強したい。
- (6) 高齢者の夫婦のみ、高齢者の一人暮らしが増えているので、元気そうであっても、地域全体で支えていく必要がある。声掛け、見回り、買い物やちょっとした雑用サービスも必要だ。
- (7) 毎日24時間支援の在宅介護サービスがうまく機能することが最高である。
- (8) 優しさだけでは足りない。入学したら介護の技術をしっかり身に付けたい。
- (9) 高齢者心理について理解したい。入学後の授業でまじめに学習したい。
- (10) 適切な施設介護の在り方を考えてみたい。これにも基本的な勉強が必要と思う。
- (11) 悪質な施設経営者への対策も考える必要があるのではないか。
- (12) 施設より、在宅介護が望ましいと思う。(今回はグループホームへの発言はなかったもので、教師が一言付け加えておいた)
- (13) 福祉用の募金活動はまだ少ないと思う。赤い羽募金のように始めた方がよいのでは？

- (14) 次の世代で生産人口の激減が心配である。
- (15) 街中のバリアフリー化がもっと進むことを願っている。
- (16) 介護者、被介護者共に同じ家庭に暮らすような安らぎの中で、平安に、不可能に近いほどの『質の高い介護』により、真の幸せを追及出来る施設内介護を目指して入学後の学習に励みたい。

考察

1) 課題について

2度とも「自分の住んでいる地域の介護施設についての調査または体験学習」を課題としていたが、今後も全く同じ課題にするかどうかについては検討の余地がある。

ブレインストーミングを考えて『良い介護』とはどのようなものかについて、現在の自分が考えていることをまとめて発表、討論を活発にしてみるのも面白いと思う。ちなみに、筆者が第1学年の社会福祉演習の後期の初めに行ったKJ法による「よりよい介護とは？」で出てきたキーワードは予想したよりももっと多く、多彩で多様な討論となって、皆で知識を出し合うことの成果について感動した学生も多かった。その内容の概略は下記のようなものである。

(1) 介護者の立場で求められるもの

介護の技術（正確・巧妙・適宜・適切・精度、五感の満足を充足、高度）態度（優しさ、親しさ、温厚、丁寧、明るく、笑顔で、上品で、節度を持って、家族のように）健康（介護者自身が心身共に健康であることが基本）心得（介護者として、いつ、どこで、だれに、何を、どのように、どのような流れで行う、行動するか、計画性と臨機応変との判断もできる）医療情報の把握（医療職との上手な連携、看護の支援、持病の掌握）職場環境への適応、介護者の意思（意欲、意志、熱意、誠意、創意、決意、極意、すなわち介護職としてエキスパートを目指す：ここまでに至れば教師として満足度は最高）

(2) 被介護者（利用者）の情報

国籍・性・年齢（生年月日）・住所・家族・成育歴・友人・近所や職場での知人・病歴・現在治療中の疾病の有無と服薬状況・診療計画（リハビリテーションの必要性、痴呆のレベルなど）趣味、好物、大切にしている物、五感の満足度とADLで自立部分と要介護の動作、今までの日々の生活リズムや習慣（起床と就床時間、食事時間、間食の有無と内容、散歩や運動、読書や趣味の時間帯、その内容、日記などの習慣、睡眠前の決まった儀式、好きな飲食物、絵画、音楽、テレビ番組、電話やインターネット、誕生日や祝日の過ごし方など、その他）

(3) 施設（特別養護老人ホーム、介護ケア老人ホーム）病院（慢性病棟、一般病棟、精神病棟）グループホーム、在宅などによる介護の違い

- （４）介護者のリフレッシュ方法と相互カウンセリング、環境や待遇の改善
- （５）介護の技術と知識の進歩のための手段や方法
 専門雑誌、研究会や講演会への参加、その他
- （６）施設間の連携、相互扶助・支援
- （７）リスクマネジメント
- （８）ケアマネジャー国家試験への準備と挑戦、その他

このように考えられるようになることは楽しみである。さらに進んで、自身がグループホームの責任者や寮母、または経営者になったとする仮定での福祉と経済面からの思考にも発展することが望まれるが、なかなかそこまでの発言には至らなかった。

さらに、学外実習での指導者の悩みを聞いた経験から、本学でも「人間関係教育」の必要性を考える時期であると思うが、筆者らが既に医学部学生での経験をまとめた著書²⁾も参考になると思う。

評価については、入学前をコントロールとして第２学年で同じ学生のグループによる同じ課題での討論を実施することができれば、学習効果の判定の精度が飛躍的に上昇することは間違いない。

「月刊福祉」のような雑誌を指定して、一つの記事を選択して読書感想文を提出することを前提としてグループ討論を行うことも一つの方法である。

また、本学卒業生の中で現職で活躍中の介護福祉士に話して貰って、色々な質問への応答と学生生活へのアドバイスをお願いするのも強いインパクトを与えると思う。

最近の新聞から介護関連の記事を抜粋してそれについての討論を行うのも興味深いと考えられる。社会人入学者の数名が参加していればこのような課題への興味が沸くかもしれない。

2) 入学前教育の目的

同じ目的で合格したこのような参加者はすぐに親しくなるので、アイスブレイキング法や特別のコミュニケーション技術を模索する必要は殆どなかった。AO入試による合格者の特徴でもあるかと思うが、介護専攻へのモチベーションは高い。しかし、具体的な知識はまだなく、感性での話が圧倒的に多い。問題が提言されても、それは入学後の学習で身に付くだろーと言うことが解決策となる。したがって、この時期では、問題意識を持つだけでも充分であろう。自学・自習の習慣が少しでも身につくように、方向指示として、関連の雑誌名、参考書名などを知らせるのもよいが、押しつけになると逆効果にもなりうるので、注意が要る。この熱心な生徒達が、入学後にクラスの中でコア的な存在となっていくことが出来れば申し分ないと言える。この時期は皆が緊張して真面目に応答するので、そのことを大切に授業に生かすことが求められる。

3) 対象とする生徒数

AO合格者数と対応可能な教師数によるが、必ずしも5～6名までの少数でなければならないとは限らない。14～16名までであれば、授業方法を工夫して対処すれば、

同じような効果を引き出すことができると考える。そのために教師の方の準備や心構えが求められよう。

平成15年度の人員増加は計画的なものではなかったが、今までに色々な教育方法の経験が教師側にあったことが幸いであったように思う。

4) 所要時間

高等学校の授業時間は1時限が45分である場合が殆どである。大学では90分が原則であり、これは人間の大人の生理的リズムからみて集中することの可能な時間として理想的な配分である。入学前であっても、大学で行う授業の経験として筆者は90分を守ることにしている。以前入試の時間配分で、高等学校と同じかそれに近い1時間（60分）にしないとトイレ休憩が必要になるとの議論があった。しかし、現在の高校生の成長と体力、自律神経機能と中枢性制御力は大人や大学生と遜色はなく、筆者の経験上からも高校3年後期のこの時期は90分連続授業でも全く問題はないし、緊張度も丁度よいと考える。

参加者の感想

参加者全員に授業後感想を聞き、約2分で感想文を書いて提出して貰った。高校生達の生の文章を紹介する。但し、多くの生徒達が下記の1～3の内容では同じことも書いているので、重複は避けるように配慮して記載した。

- (1) いろんな人の話を聞くことで、今後の参考になりました。
- (2) こういう意見交換がまたできたらいいなと思いました。
- (3) 皆色々な体験をしていて、やっぱり一人一人違うように考えているんだと思いました。
- (4) 身内での介護体験のある方（社会人）の話を聞いて高齢者に対する気持ちを考え直す必要を感じました。ただ優しいだけではだめなんだと思いました。
- (5) 介護に対する一人一人の考え方の違いに驚かされましたが、皆しっかりした考えを持っていてすばらしかったです。
- (6) みんな考えていることが一緒だと聞いて「あー」って思うことがいくつかありました。とても勉強になりました。
- (7) 今までになかった考え方なども自分の中に取り入れることができました。施設訪問の話も聞けて経験（を共有できて：加筆）してよかったです。
- (8) 色々な体験談や意見をもっとくわしく聞きたいと思いました。
- (9) こんな風に同じ目的を持った人と意見を言い合うのは初めてで緊張したけれどとても勉強になって、早くこの学校に通って色々な面で学んで行きたいと思いました。
- (10) 今日はすばらしい時間を過ごせました。社会人の方にはすごく身近な話を聞くことができ自分の考えが大きくなりました。早く入学してみんなと仲良くな

り、一生懸命勉強していくことが楽しみです。

- (11) いろんな人の考え方が分かりました。今後それを含めてもっと沢山考えていきたいと思いました。
- (12) 今まで自分が抱いていた介護に対する考えをより深く考え直すことが出来ました。
- (13) 介護施設の数さえ多ければ良いという考えは間違いであると気付かされました。老後問題を多面的に考えられるようになりたいと思います。

おわりに

社会福祉学科介護福祉専攻コースAO合格者の入学前授業を担当して、本学で一生懸命勉強したいと思っている生徒達のこの気持ちを大切に守り育てていくことが介護福祉士養成を担う教職員の責務であると思った。

特に、一人の参加者から寄せられた「不可能に近いほどの質の高い介護を目指す」という決意とも思える言葉には感激さえ覚え、この暮の12月末多忙な時期の担当さえも喜びに変えるに余りあるほどであった。これが、本稿執筆のモチベーションに繋がったことも間違いない。

今後も適切な課題が選択され、AO入試合格者の入学前授業が順調に効果的に進められることを願う。

文献

- 1) 東京女子医科大学テュートリアル委員会編『テュートリアル教育』篠原出版, 1996.
- 2) 東京女子医科大学ヒューマンリレーションズ委員会編『医学生と研修医のためのヒューマンリレーションズ学習』篠原出版新社, 2003.